

学校だより

第18号

令和7年度

いつも心にあいうえお

令和 7年 11月26日(水)

発行：那覇尚学院高等専修学校

文責：校長 初鹿野 修

[階段を半分おいたところ]

J・A・ハミルトン

階段を半分おいたところに ぼくの座る階段があるんだよ
 これとそっくりの階段は どこにだってない
 いちばん下でもない てっぺんでもないんだ
 だから ぼくは いつでも そこに とまって 座るんだよ

階段を半分のぼったところは
 上の方でもないし 下の方でもない
 そこはママの部屋でもないし 町の通りでもない
 だから いろいろなおもしろい考えが
 ぼくの頭の中を駆けめぐるんだ
 それは ほんとうに どこにだって
 どこにもない いいところなんだ

「こどもの空間」「こどもの宇宙」というところが、何とも素敵です。この詩にあるように、「僕の座る階段」がみんなに必要です。居場所があると安心して教室にいらることが出来ます。そんな、教室づくり、学校づくりをいま、みんなで取り組んでいます。生徒も保護者も教職員もみんなで作るために、総合的な探究の時間を使い、生徒2人、保護者2人、教職員3人の7名の総動員の力で今取り組んでいます。私たちの学校、わった一学校の意識で、まだ見ぬ未来の仲間たちのために「居心地のいい居場所」づくりを一緒にお願いします。

そして、3つの間の話があります。「時間」「空間」「仲間」です。なんとかしてこの「間」を提供できるように「学ぶことを学ぶ」学び合い・支え合いのできる学校づくりの基礎を着々と進めたいと考えています。自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の身体で行動できる生徒を育てることが、今の私たちの課せられた使命だと考えています。J・A・ハミルトンの詩でそんなことを感じました。

教師にとって研究と修養は重要です「研修」

私達教師にとって、日頃の授業を行うために教材研究は不可欠です

また、その教材研究を生かしての授業研究会も必要です。それは、教師の質をあげることにになり、これはとりもなおさず、生徒たちの生きる力の向上に直接関わることであります。ただ、なかなかお互いが授業を観る時間を見つけるのが難しいのが現状です。DVDに録画して後で観る方法もありますが、でも今度DVDを観て、学び合う時間を見いだすことがまたまた難しいです。生徒は2人ですが、3人の職員は高等専修学校以外の授業も持っているからです。そのため、時間調整が難しいので、でも、自分で自分の授業をリフレクションする授業リフレクションを私達はやる努力はしています。それを週報や授業記録に書くことにより、次への改善につなげています。できないものをできないと愚痴を言うよりできることから進めたいと思っています。そのため、教師の研修の時間確保は重要だと考えています。

新理事長
学院長

就任

大城浩学院長

タイムズ表敬
訪問での記事

名城政次郎学院長の意志を引き継ぎ尚学院の学院長に就任されました。「継承と修正」尚学院ブランドを引き継ぎ新しい大城カラーが出るとしています。

予備校や専門学校を運営する学校法人尚学院の新理事長・学院長に就いた大城浩さん(74)らが20日、就任あいさつで沖縄タイムス社を訪れた。10月29日の理事会で選任された。前任は故名城政次郎さん。

大城さんは高校の英語教師を務めた後、県教育委員会を歴任。英語教育を軸に国際人材の育成に尽力してきた。

新理事長として「創立75年の歴史で培ってきた尚学院ブランドがある。現在募集が低迷しており、他校との差別化が必要となっている。これからは学生と地域から愛されるよう頑張りたい」と抱負を語った。

紙面編集・國仲昌史

尚学院理事長
大城さん就任

「頑張りたい」



就任あいさつに訪れた(前列左から反時計回りに)学校法人尚学院の名城郁子常務理事、大城浩理事長・学院長、下地正浩広報室長、大城美穂子副学院長、尚宋社の羽根隆文代表者(20日、沖縄タイムス社)